

ひまわり新聞 15

ひまわり甲子園2018地方大会・・・5

ふくしまの元気と感謝を伝えよう!
子どもがふみだす Fukushima復興体験応援事業・・・6

スポットライト ふくしまこの人・・・7

子どもから大人まで心が豊かになるルポ絵本が誕生・・・8

Web資料館OPEN!・・・9

日本善行会「善行銅章表彰」受賞 / 災害支援報告・・・10

<Topics>全国に広がる絆・・・11

福島ひまわり里親プロジェクトの記録・・・13

おしらせ・・・15

感動をありがとう!
ひまわり甲子園2019全国大会



2019年度の種の販売を開始しました!

全国の里親さん!今年もひまわりを育てて採れた種を福島に送ってください。種の購入をご希望の方は、別紙またはネットからご注文の程、よろしくお祈りします。

※福島県内は、全国から届いた福島応援の絆のたねを
寄贈・配布いたします。



ひまわりに関するお問合せ

✓ ひまわりの育て方や種の取り方など

専用ダイヤル:080-1690-0711
担当:藤島 康広



各種お問い合わせ

✓ メディアお問合せ
✓ 種の寄贈、各種イベント
✓ 賛助会員、グッズ販売など

〒960-8055
福島県福島市野田町6-7-8
ツインコートB103
福島ひまわり里親プロジェクト事務局
TEL: 024-563-7472
担当:事務局 清野 巽 (せいのたつみ)

収穫した種の送り先

▶ 全国で採れた種

〒969-1403
福島県二本松市渋川字大森越122
特定非営利活動法人 和 (なごみ)
福島ひまわり里親プロジェクト事務局
TEL:0243-23-4551

▶ 福島県内で採れた種

〒960-8055
福島県福島市野田町6-7-8
ツインコートB103
福島ひまわり里親プロジェクト事務局
TEL:024-563-7472

NPO法人チームふくしま 福島ひまわり里親プロジェクト

〒960-8055
福島県福島市野田町6-7-8ツインコートB103
福島ひまわり里親プロジェクト事務局
TEL:024-563-7472 / FAX:024-529-5794
MAIL:info@sunflower-fukushima.com

HP:https://www.sunflower-fukushima.com/
ブログ:https://ameblo.jp/sunflower-fukushima/

Facebook:https://www.facebook.com/himawarisp/

Instagram:https://www.instagram.com/himawari_tabikuma/

Instagramはじめました!

follow Me!!
@himawari_tabikuma

福島ひまわり里親プロジェクトの活動は
#福島ひまわり里親プロジェクト
をつけてぜひ投稿してください。
フォトコンテストなども開催予定です!



HP



Facebook

関西地区代表 小中一貫校 宇治黄檗学園 宇治市立黄檗中学校 (京都府)



施設一体型の小中一貫校として2012年4月に開校。1年生～9年生(中学3年生)の9学年が同じ校舎で学んでいます。宇治市では、総合的な学習の時間を宇治学と称し、3年生～9年生を対象にして副読本が作成されました。その副読本をもとに、各校が特色を生かして各学年のテーマに取り組んでいます。7年生のテーマは「防災」で、その中で『福島ひまわり里親プロジェクト』にも参加しています。「防災」のテーマのもと、プロジェクトを通じて学んできたことを発表しました。

信州・北陸地区代表

養護老人ホーム尚和寮 南島 元子 (長野県)



利用者さん、職員が協力して、雑草だらけだった庭にひまわりを植えることで、手入れが行き届き、きれいになっただけでなく、ひまわりに関する会話が増え、ひまわりの成長を通じた皆さんの気づきや学びがあったそうです。利用者さんと心温まるエピソードを発表しました。

感動をありがとう!

ひまわり甲子園2019全国大会

2019年3月9日(土)・10日(日) あづま総合体育館

「ひまわり甲子園2019全国大会」の初日、第一部では、全国から集まった9団体による、「震災があったからこそ”うまれた物語”」の発表。どの発表も心に残る発表ばかり。今年もこの福島の地で、たくさんのひまわりの物語が紡がれました。

中国・四国地区代表

WAKUWAKU OKAYAMA (岡山県)

2012年から岡山県内でひまわりを育て、心の応援の気持ちを福島に送り、全国の友を増やしています。昨年7月西日本豪雨では災害の少ない岡山県も水害にあいました。今回の経験から、心の絆の重要性を感じ全国のひまわり仲間力を借りて一番被害の大きかった倉敷市真備町にエールを送るプロジェクトを始めました。



熊本デザイン専門学校同窓会 (熊本県)



同窓生で2018年からプロジェクトに参加。昨年の春、クマデザジャンボリーという卒業生と在学生を繋ぐイベント内で、多くのひまわりを植え、育てました。このイベントでは「暮らしに深く関わるデザイン業界からできること」を改めて考えるとともに、復興支援となった活動について発表をしました。

NEXCO東日本高速道路株式会社室蘭管理事務所グループ (北海道)



2018年からひまわり里親プロジェクトに参加。NEXCO東日本では「高速道路」と「福祉」が連携した取り組みを「高福(幸福)連携」と呼び、その中でひまわり里親プロジェクトを地元の社会福祉法人と連携して高速道路の休憩施設で実施。お客さまの目を楽しませるとともに、障害のある方の雇用を創出し、健康・生きがいづくりの一助となりました。福島と北海道をつないだこの取り組みについて発表しました。

発表団体紹介



なごみ 特定非営利活動法人 和 (福島県)



福島県二本松市で就労継続支援B型事業所とグループホームを運営。震災後、それまで行っていたお仕事がなくなったことがきっかけとなり「福島ひまわり里親プロジェクト」が生まれました。ひまわりの種の袋詰めやフラワータグの作成、資料の封入作業など、利用者さんの大事ななお仕事となっています。福島ひまわり里親プロジェクトに参加されている皆さんに感謝の気持ちを発表しました。

東海地区代表 浜松市立引佐南部中学校 (静岡県)



「日本一幸せな学校」を合言葉とし、自分達だけではなく関わったり訪れたりする人、地域・社会、未来を幸せにする学校を目指しています。その一環として、生徒会が中心となって「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加しています。引佐町や引佐南部中学校の良さを、プロジェクトの取り組みとともに発表しました。

中部地区代表 松阪市立阿坂小学校 (三重県)



全校児童87人の小学校。「ひまわりの絆」を胸に、2015年からひまわり甲子園に参加しています。学級目標の「感謝・感動される最高学年」を意識し、全校で「1年中ひまわり」の児童会のめあてを掲げ、ひまわりを広げる活動など自分たちができることをやっといこうと取り組んでいます。会場では、児童の想いや取り組みに感動の涙を流す人が多くいました。

高校生部門代表 安城学園高等学校 (愛知県)



2年前、商業2年1組が学園祭で「ひまわり」に取り組んだことが「福島ひまわり里親プロジェクト」との出会いでした。今年は生徒会が引き継ぎ、学園祭では原発に関するシンポジウム、地元安城原発建設の賛否を問う模擬住民投票も実施。遠く離れていてもできることをテーマに、福島への想いをレポートしました。



第3部
3月10日(日)

第3部は、交流会で各団体の取り組みが発表されたほか、サブアリーナでは、子ども達がパラリンピックの種目「ボッチャ」を体験しました。
エンディングは、快晴の空の下、ひまわりカラーの風船200個にひまわりの種をつけて大空へ！
この種がどこかで誰かの心を照らすひまわりを咲かせ、また新たな絆を生むきっかけになれば嬉しいです。



第1部
3月9日(土)



宣誓
私たちはあの日2011年3月11日、普通の生活が一変し、かけがえのないものを失いました。
あれから8年が経とうとしている今、全国各地からここ福島に、たくさんの方々が集まってくれました。
東日本震災が残した爪痕は、完全に消すことはできません。しかし、だからこそ私たちが伝えるべきことがあると思います。
全国にたくさん素敵なひまわりが咲くように、私はこのひまわり甲子園で自分たちの地域の想いや絆を全力で伝えることを誓います。
平成31年3月9日
福島県立田島高等学校 星 香

第1部では、全国のプレゼンターの発表が行われました。(発表団体は1~2ページをご覧ください)



今年、宣誓をした星さんは、第1回ひまわり甲子園でも宣誓をしました。

ご祝辞を頂戴しました!



福島市 公園緑地課長
鈴木 守 様



福島県 風評・風化対策監
兼知事公室長
宇佐見 明良 様



復興庁 福島復興局長
加松 正利 様



南会津発!小・中・高校生による現代版組踊「息吹」



NTT東日本様から福島の子ども達へひまわりの種贈呈式

あたたかな想いに包まれた2日間

今年の「ひまわり甲子園2019全国大会」のテーマは、「過去・現在・未来」です。

いよいよ1年後となった2020年の東京オリンピック。開幕戦は、ここ福島市の「あづま球技場」で行われるソフトボールの試合。その球技場と同じ敷地にある「あづま総合体育館」が、今回のひまわり甲子園2019全国大会の会場です。

2011年、ここは東日本大震災による津波や東京電力第一原子力発電所の事故により避難してきた方々の避難所でした。多い時で1日2500人、約6ヶ月半で延べ11万人もの方を受け入れました。

今回、ここでひまわり甲子園全国大会が開かれるということで、当時を想像し想いをはせながらも、震災がなければきっと出会うこともなかった方々とのこうしたご縁に、改めて感謝した2日間でした。

福島の沿岸部で、津波によってご家族を亡くされた方が繰り返し語られる言葉があります。「震災を忘れてもいい

いから、教訓にしてほしい」「災害が起きたときに死者がゼロだった。それが自分たちにとっては一番うれしい」ということです。

震災からの8年間でも、たくさんの災害が起きました。その度に、尊い命が失われ、そのときに必ず聞かれるのは「まさか」という言葉です。震災直後の危機感は薄れ、私自身「防災」ができていたのか?という、自信をもててきているとは言えません。

いつ何が起るか分からない中、今すぐ誰にでもできることは、今ある命、当たり前の日々感謝しながら、今を大切に精一杯生きること。そして、大切な人・大切な命を守るために、一人ひとりが「まさか」に備えた防災意識を持つことが大切だと感じています。

今回、初めて参加したひまわり甲子園でお会いした方々は、他者へのあたたかな思いやりにあふれ、熱い気持ちでプロジェクトに取り組み、ふくしまを想っている方ばかり。そして、東日本大震災・原発事故を教訓とし、それを伝えていこうとしていらっしゃる方々の想いに感動して涙がでました。しかも、この

プロジェクトに関わっている皆さまの笑顔は、まるでひまわりのようで、こちらがパワーをいただいたような気がします。

日々、たくさんの出来事があり、目の前の生活に追われていると、自分の身近なこと以外に関心を向けつづけたら、気持ちを寄り添わせ続けることは難しいです。そして、全ての物事に意識を向けることもできません。

一番は、自分や目の前にいる人たちを大切にすること。それでも、時には遠く離れた誰かや何かを想い、想像できる自分でありたい。そして、私もこの福島ひまわり里親プロジェクトに関わっている皆さまのように、小さくても何か行動をしていきたいと、改めて感じました。

この度は、素晴らしい2日間ありがとうございました。福島に移住して5年目。今年私は初めて全国の皆さまの育てたひまわりの種を浜通りで植えます。皆さま大切の想いのこもった種だと思つと、ますます愛おしく感じます。大切に育てさせていただきます。
(南相馬市 新田真由子)

第2部
3月9日(土)



第2部は、キャンドル・ジュンさんによるキャンドルナイトと交流会。吉成副理事長より、震災当時の経験と想いが語られ、震災直後の炊き出しを再現し、屋外でおむすびと豚汁をいただきました。



ふくしまの元気と感謝を届けたい!

子どもがふみだす Fukushima復興体験応援事業

福島県教育庁社会教育課主催事業の平成30年度「子どもがふみだす Fukushima復興体験応援事業」に採択いただき、福島県の子どもたちが、全国の里親さんから届けられたひまわりの種を育て、県内の施設に展示したほか、咲いたひまわりで様々なものをつくり、里親さんへ感謝の気持ちとしてプレゼントをしました。

ひまわりの栽培とプランターの設置

種まき

約50名の福島県の子どもたちが、全国の里親さんから届いた種をまき、ひまわりの栽培をスタート!
(8月~10月)



プランター設置

とうほう・みんなのスタジアム(福島市)に、福島県内の小・中・高校生が、全国の里親さんから届いた種から育てたひまわりのプランター40個を設置しました。当日は、Jリーグに加盟する福島ユナイテッドFC様のホームゲームが開催され、会場に訪れた約1000名の方にご覧いただきました。(10月7日)

震災講和



ひまわりの栽培とともに、福島県から自主避難をされた方から、震災後の生活・考え方の変化や、授かった命への感謝と健康であることの大切さについて話をいただきました。(10月30日)

感謝品づくりと贈呈

絵はがき教室

福島県の子どもたち25名が全国の里親さんへの感謝の気持ちを込めて、実際にひまわりを見ながら絵はがきを作成しました。(8月7日)



ひまわり染め・ひまわり杖づくり



ひまわりの種で色を付ける木綿ハンカチ作り、ひまわりの茎を使った杖作りを行いました。約10名の福島の子どもたちが感謝の気持ちを込めて制作しました。(12月8日)

損害保険ジャパン日本興亜株式会社様へ感謝品を贈呈

里親企業としてプロジェクトに参加して下さっている、損害保険ジャパン日本興亜株式会社様(東京都)へ、福島を応援して下さっていることへの感謝の気持ちを込めて、福島県内の子どもたちから感謝品として「ひまわりポストカード」、「ひまわり染めハンカチ」、「ひまわり杖」を贈呈させていただきました。また、損害保険ジャパン日本興亜株式会社の東北エリアや新宿区立新宿養護学校の皆様が育てたひまわりから採れた、たくさんの種も贈呈いただきました。この種は、福島県内の方々に配布させていただき、夏には県内の各地で満開のひまわりが咲き誇ります!(12月26日)



中部地区大会(三重県)

2018年8月31日
農業屋コミュニティ文化センター



京都府 のぞみ鍼灸整骨院
愛知県 安城学園高等学校
三重県 大矢知地区人権教育推進協議会
三重県 松阪市立西中学校 野球部
三重県 松阪市立阿坂小学校

関西地区大会(京都府)

2018年11月18日
京都大学 宇治おうばくプラザ きはだホール



京都府 のぞみ鍼灸整骨院
京都府 宇治黄檗学園 宇治市立黄檗中学校
兵庫県 東洋大学附属姫路高等学校
京都府 社会福祉法人長岡福祉会 友岡保育園
三重県 大矢知地区人権教育推進協議会

東海地区大会(静岡県)

2018年11月14日
浜松市立引佐南部中学校



静岡県 浜松市立引佐南部中学校
静岡県 静岡県商工会青年部連合会
静岡県 株式会社長坂養蜂場



全国初! 中学校にて
ひまわり甲子園地方大会開催!

信州・北陸地区大会(長野県)

2018年11月4日
合宿・研修旅館 陽だまりの家



長野県 株式会社酒井商會
長野県 中氷鮑簡易郵便局
長野県 養護老人ホーム尚和寮 南島元子
長野県 岡谷市立上の原小学校

中国・四国地区大会(岡山県)

2019年2月3日
倉敷市玉島市民交流センター



岡山県 笠岡市立白石中学校
広島県 広島県立呉南特別支援学校
島根県 島根県立江津清和養護学校/
江津市立高角小学校
岡山県 Wishbase
山口/京都 のぞみ鍼灸整骨院
岡山県 WAKUWAKU OKAYAMA

ひまわり甲子園2018地方大会



全国で「震災があったからこそ生まれた物語」を発表

子どもから大人まで 心が豊かになるルポ絵本が誕生

佐久間辰一さんがモデル 「ぼくのひまわりおじさん」

切り絵アーティストチャンキー松本さんが描く美しい和紙貼り絵絵本！
絵本編（32ページ）と物語の背景を解説するルポ編（24ページ）で1冊を
構成する「ルポ絵本」です。



たくさんのひまわりが咲く村で楽しく暮らす、ぼくのひまわりおじさんは人気者。
「土をいじることは楽しいよ。毎日に発見があるんだ！」ひまわりおじさんは畑の太陽だ！

2018年8月15日、ルポ絵本『ぼくのひまわりおじさん』が出版されました。

主人公のモデルは私たちのひまわりおじさん・私たちのひまわり先生である佐久間辰一さんです。福島県田村市大越町牧野で、花を育て、景観と交流を生み出す牧野ひまわり会の会長として、プロジェクトが始まるずっと以前から、福島県内で盛んにひまわりを育ててきた人物です。

地域のひとと一緒に、たくさんのひまわりを咲かせ穏やかに暮らしていた中で起きた東日本大震災と原発事故。東京電力福島第一原発は、東の山を越えた向こう側。そんな中でも底抜けに明るくたくましく生きる、ひまわりおじさんの家は、全国から、海外から千客万来！

太陽の下で汗を流すこと、心を開くこと、受け入れること、感謝すること、許すこと…日々を祝い、人生を味わう暮らしのすばらしさを感じることが出来る絵本です。

ルポ編「いつも心にひまわりの花」では佐久間さんのすばらしい生き方について、子どもから大人まで楽しみながら学ぶことができます。

Amazonや各書店、福島ひまわり里親プロジェクトオフィシャルネットショップ等から購入できます。

人の心に光をともし ひまわりおじさんの物語

農家の長男に生まれた佐久間さん。農家を継ぐうと思っていたところが、父親の「これからは何か資格を取った方がいい」との言葉から、岩瀬農業高校卒業後、同校の別科で測量課程へ進み、様々な資格を取得。翌年から実習助手を務めながら大学の通信教育で教員免許を取得しました。

教員採用が厳しい時代、ようやく本採用となったのは35歳でした。



佐久間さん

実習助手から本採用、担任、教務主任、農場長そして地域活性化のための活動など、色々やってきたことが成長につながりました。



スポーツライト
ふくしまこの人

さくま しんいち 佐久間 辰一さん

昭和27年（1952年）1月31日生。福島県田村市在住。
元高校教諭。牧野ひまわり会会長／田村市グリーンツーリズム協議会会長／大越まちづくり協議会副会長など

楽しいからこそ 続けることができる

「楽しみながら」というと農業を専門にされている方から怒られるかもしれませんが、「そう笑いなながら話し始めた佐久間さん。」

「楽しみながらやる農業に憧れます。いやいやでは続かない。楽しいと思えばこそ続けることができ、続けることで儲けにもつながるようになると思います。」



冬の間も自宅の2階に鉢植えて育てておくことで、露地栽培でもしっかり育つそうです。

佐久間さんの有名なパッションフルーツ

20年ほど前に知人から1株もらったものを増やし、一般的なハウス栽培ではなく露地栽培で育てています。

佐久間さんのお宅の2階には、冬の間も翌季用のパッションフルーツの鉢が沢山置かれています。

「露地栽培ではなかなか思う様に育ちにくいけれど、鉢である程度大きくしてから畑に植え替えることでしっかりと育つことがわかりました」

こうして、愛情と手間暇をかけることで大きく美味しいパッションフルーツが育ち、田村市大越町でたくさん実をつけています。

植物から学ぶことは たくさんある。

植物は、季節や場所きちんと棲み分けし、うまく共生しています。人間には個性がありますが、その個性がぶつかり合うと争いごとにつながります。お互いの個性を活かし、欠点を補い合うことで「共生」できる。雑草もきちんと共生していて、そういったことを知ると可愛く思えます。

佐久間さんの育てた大根、白菜、玉ねぎ、きゅうり、トマトなどの他、食用ほおずき、丘わかめ、ズッキーニ、エレガントサマー（さつまいも）の茎、白ゴーヤなど、様々な種類の野菜は、田村市や郡山市の直売所で販売しています。

刊行記念イベントを開催しました

●福島市 岩瀬書店 八木田店 (2018.10.20)



佐久間さんのトーク＆サイン会と、絵本の原画展を開催しました。学生から大人まで多くの佐久間さんファンが集まりました。

●東京 八重洲ブックセンター (2018.11.17)



絵本作家チャンキー松本さんと佐久間辰一さんのトーク＆サイン会や、生演奏をバックにチャンキー松本さんによる朗読や、絵本の原画展を開催しました。

田村市へ60冊、福島県立図書館へ100冊
寄贈。福島県内59市町村全ての図書館・
図書室に設置されることになりました！

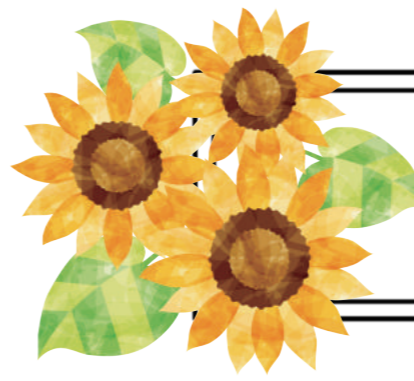


ルポ絵本『ぼくのひまわりおじさん』

- ・絵と物語：チャンキー松本
- ・ルポ：中島 敏子（燕遊舎）
- ・協力：佐久間辰一（牧野ひまわり会会長）
- ・監修：半田 真仁（NPO法人チームふくしま代表理事）
- ・編集・発行：文屋（<http://www.e-denen.net/>）
- ・価格：1,620円（税込）
- ・ページ数：56ページ
- ・発売：サンクチュアリ出版
- ・発売日：2018年8月15日



未来へつなぐ 福島ひまわり里親プロジェクト Web資料館OPEN!



忘れてはいけない大切な
ひとつひとつの記録

東日本大震災が起きた2011年から活動を開始した「福島ひまわり里親プロジェクト」ですが、活動の情報発信のために同年Webサイトを制作し公開致しました。おかげさまで全国の方々にWebサイトを見ていただき、多くの方々に里親さんとしてプロジェクトに参加いただくこととなりました。

はじめは、プロジェクトの説明、お知らせ、参加申し込みが主な役割でしたが、その後、多くの方々から届く応援の手紙、メッセージ、また、里親さんたちがひまわりを育てる様子をまとめた写真や資料を送っていただくことが非常に多くなり、できるだけ多くの県内の方々に福島を応援する全国の方々の想いを観ていただきたいと考え情報を発信するようになりました。私自身も全国の皆様の想いに何度も励まされました。

これまでの、そしてこれからの記録をしっかりと未来へつなぐ

これまでに掲載された記事は、約4000件。その一つ一つの記事・情報は決して忘れてはいけない大切な記録です。

震災が起き、被災地で様々な問題を抱え、様々な判断をし答えを探しながら生きた行動の記録、応援いただいた記録たちを未来に受け継いでいきたいと考えました。そこで、昨年、防災減災活動や伝承活動を目的とした「東日本大震災現地NPO応援基金」プログラムのサポートを頂き、今まで記録した記事をアーカイブ化し、将来、記事を活用できる「福島ひまわり里親プロジェクト Web資料館」の制作をしました。

今まで掲載していた記事は発信が目的だったため、従来のWebサイトでは新しい記事に古い記事が埋もれてしまい、過去の記事になかなかたどり着かない構造でした。

そこで、検索が容易にできるよう記事のカテゴリー分けを実施し検索機能を設けたサイトづくりを構築いたしました。現在、カテゴリー毎に仕分けされた

記事は容易に閲覧できるようになっています。

今後も記事は蓄積され続けまので、必要な情報が見つめやすく、より活用しやすい環境に成長させていき、今までの活動、記憶、記録を未来につなげる場所になればと考えています。

ぜひ、「福島ひまわり里親プロジェクトWeb資料館」の検索機能を使い皆さんの活動や気になる情報を探してみてください。

(副理事長 堀内孝勇)



ぜひ見てね!



福島ひまわり里親プロジェクト
Web資料館

TOP画面にはミツバチの隠れイベントも!



<https://mu.sunflower-fukushima.com/>

日本善行会

「善行銅章表彰」受賞

11月17日、明治神宮参集殿で開催されました日本善行会秋季表彰式にて表彰の栄誉を賜りました。

この「秋季善行表彰」は一般社団法人日本善行会（昭和12年設立）が青少年の健全育成や環境美化活動、自然と文化財愛護などの見地から功績が認められる個人・団体を表彰するもので、60年を超える歴史を持つ賞です。

チームふくしまでは、東日本大震災後の5月から福島ひまわり里親プロジェクトをスタートし、全国の里親さん・福島の地域の皆さんの一粒一粒の積み重ねのご支援により、このような受賞をいただくことができました。心より感謝申し上げます。

今後も当活動を通して、福島の未来に繋がるよう取り組んで参ります。今後もお力添えの程、よろしくお願いたします。



秋季善行表彰 表彰式の様子



授与された賞状と善行章

関わってくださる
全国の皆さまの受賞です!

災害支援報告

「平成30年7月豪雨」「北海道胆振東部地震」

昨年、西日本を中心に広範囲に降り続いた記録的な豪雨「平成30年7月豪雨」そして、9月6日に北海道胆振地方中東部を震源とした「北海道胆振東部地震」では甚大な被害をもたらしました。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆さまにお悔やみを申し上げます。また、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

NPO法人チームふくしまでは、被災地支援のため募金の呼びかけを行いましたところ、合計106万5100円を皆様よりお預かりいたしました。

皆様からお預かりした募金は、被災地への寄付および支援物資などその全額を充てさせていただきますました。皆様の温かいご支援に厚くお礼申し上げます。

被災地の一日も早い復旧と皆様の日常に笑顔が戻りますことを、心より祈念しております。



12月4日、11日（京都府）



のぞみ鍼灸整骨院院長 小川由智様による「福島ひまわり里親プロジェクト」の講演会が、宇治ひろの学園 広野中学校と宇治市立黄檗中学校にて開催されました。黄檗中学校では、生徒が育てたひまわりの種を寄贈していただきました。

10月12日（広島県）



株式会社インフィニティ様が、広島市へコミックと、きずなの種セット、「ひまわり」が入ったCDを寄贈され、市内全ての小中学校と特別支援学校に配布されました。

9月9日（川俣町）



つながっぺ山木屋フェスティバル2018において、川俣町の復興拠点商業施設とんやの郷様へ、ひまわりプランターを寄贈し、来場者の方へひまわりの種200袋を配布しました。

8月16日（浅川町）



浅川町のイメージキャラクター「あさまるくん」と共演！花火の里あさかわフェスティバルにて、ひまわりプランター寄贈・種400袋を配布しました。

12月15日（愛知県）



イオンタウン名西にて、イオンタウン株式会社様、マックスバリュ中部株式会社様より、贈呈式が行われました。総勢4100名の方々の気持ちのこもったひまわりの種149kgを贈呈いただきました。

10月14日（田村市）



大越まちづくり秋穫祭にて、毎年恒例である大越町の皆さんが栽培したひまわりの種の贈呈式が行われました。

10月3日（二本松市）



二本松郵便局様へひまわりの種2000袋、ルポ絵本3冊、コミック3冊を寄贈しました。これらは、二本松市内の郵便局内と霞ヶ城公園で開催された「二本松の菊人形」会場にて配布されました。

9月8日～9月18日（福島市）



福島市の福祉作業所「ほっとライフ」の利用者の皆さまが育てたひまわりを、JR福島駅西口前に設置しました。この作業所の皆さまに、ひまわりプロジェクトのDMの封入作業や、福島県内に配布する種の選別・袋詰めなどをお仕事としてお願いしており、大変お世話になっている作業所です。

12月13日（京都府）

宇治市内の友岡保育園、今里こども園、海印寺保育園を訪問し、ひまわりの種の贈呈式を行いました。



10月23日（福島市）



さくら幼稚園の年長組の園児が育てたひまわりから採れた種を贈呈いただきました。

10月5日（大熊町）



大熊町役場いわき市出張所にて、大熊町ひまわり会様よりひまわりの種を寄贈いただきました。

9月21日（平田村）



ひまわりの種200袋、プランター2個、ルポ絵本9冊、コミック3冊を平田村へ寄贈しました。

12月17日（埼玉県）



NTT東日本一関信越様にて、社員の皆さまや近隣の保育園児などが育てたひまわりの種約4.5kgのラッピング会を開催してくれました。園児の皆さんからはたびくまくんへのお手紙もいただきました。

10月5日（京都府）

有限会社こじま様が、宇治教育委員会へ宇治市立小中学校32校分のコミックを寄贈されました。



9月29日（浪江町）

浪江町地域スポーツセンターで開催された「ふたばワールドinなみえ」にて、福島復興局の皆さまが、来場者へひまわりの種500袋を配布してくださいました。また、コミックとルポ絵本も子ども達へプレゼントしました。種を受け取った方から「うちの子どもも、もらった種を育てています!」「昔、浪江でひまわり畑をしていたから、思い出して元気が出ます」などの声が聞かれました。



福島ひまわり里親プロジェクトの記録 (2018年8月～2019年3月)

全国各地でプロジェクトの活動を取り上げていただきました。ありがとうございます。

福島の今学び伝えたい

2018年12月13日
福島民友

松阪 阿坂小児童がひまわり甲子園へ

東日本大震災と原発事故の被災地、福島県にヒマワリを教える活動のエピソードを掲載する「ひまわり甲子園全国大会」に、松阪市の阿坂小学校の6年生が中部地区代表として参加する。6日、学校で支援者から交通費を手渡し贈呈式があった。児童たちは「福島のことを学んで伝えたい」と話す。(定塚優人)

2019年3月8日
中日新聞

ヒマワリ使い染め物

田村で地域振興事業

ヒマワリを活用した地域振興事業「福島ひまわり里親プロジェクト」が8日、田村市大庭町の佐久間辰さん(牧野ひまわり会長)が行われた。子どもたちがヒマワリを使い、染め物やつえりを作り、つえり作りに取り組んだ。

NPOチームふくしまの主催。県教育「子どもがみんたす」ふくま身体体験活動事業の一環。県の小学生ら約10人がヒマワリの種を色を付ける木綿ハンカチ作り、つえり作りに取り組んだ。

ヒマワリの絆に感謝

福島里親プロジェクト
損保ジャパンに6人

感謝の気持ちを込めて、子どもたちがヒマワリを贈った。

2018年12月27日
福島民友

ヒマワリの種で復興支援

NEXCO室蘭と太陽の園連携

震災8年、新たな絆
福島の大会招かれ発表

2019年3月11日
室蘭民報

復興の花心一つに

福島支援 ひまわり甲子園

東日本大震災
あす30周年

2019年3月10日
中日新聞

福島支援 中学生ら報告

北区 ひまわり甲子園東海大会

2018年11月15日
中日新聞

大熊ひまわりプロジェクト 2団体に種贈る

2018年11月19日
福島民報

ヒマワリの種 2万粒贈る

NPOチームふくしま 平田村へ

2018年9月23日
福島民報

ひまわり里親活動、絵本に

NPO、県立図書館に10冊贈る

2018年9月25日
福島民友

全国の支援活動紹介

福島で「ひまわり甲子園」きょうまで

2019年3月10日
福島民報

福島ひまわり里親 7年生が次代へ引き継ぐ

2018年12月12日
洛タイ新報

ヒマワリを通じた交流

各グループ活動報告

2019年3月12日
福島民友

2018年12月8日
須坂新聞

子どもたちに命の大切さを伝えて

復興支援コミック本 酒井商会が市教委に寄贈

2018年12月8日
須坂新聞